

■ 「GUIA DE IMPUESTO A LA RENTA 所得税の確定申告実用ガイドブック」 著者：アルベルト 松本  
スペイン語版&ポルトガル語版 (資) アイデア・ネットワーク 1998年2月 3千部発行

はじめに

南米の日系人が日本に出稼ぎ目的で来日してから十年がたつ。当初は、3年から5年をメドに帰国する予定であった日系人たちは、様々な理由から日本での定住を選んできている。

多くの日系人やその配偶者は、派遣会社を通じての間接雇用がほとんどであり、ビザの申請や住宅の手配、各種税金の処理はこうした仲介業者に頼っていることが多い。しかしながら、祖国にいる家族への扶養や教育費などの名目で送金されている金額は所得の大きな割合を占めているにもかかわらず（ブラジルへはコーヒーの輸出に相当する年間約20億ドルだと推定）正規の手続きをして確定申告を行っている日系人労働者はそう多くない。

企業の源泉徴収事務に対してもこうした事情を完全に考慮してくれるところは少なく、その結果日系人たちは何をどれだけ支払っているのかを理解しておらず、不満と戸惑いが目立っている。また、もともとあまり育っていない納税意識であるがゆえに、解りやすく説明して理解を得ることが何より重要である。

そのためには、自分である程度まで計算して源泉徴収額をチェックし、各種所得控除を受けられるか否かを検討できるぐらいでなければ異国での納税者としての意識は育たないと思える。

残念ながら、最近はこうした所得控除を悪用する外国人労働者も多少目立っており、税務署の職員も扶養関係や親族関係、送金ルートを立て証できる証明書等を厳しく要求している。

しかし、ほとんどの日系人たちは善良で日本人があまり働きたがらない3K職場でボーナスや福利厚生がほとんど充実していない企業に労働力を提供しており、その限られた範囲で得た給与の一部を送金していることも理解していただきたい。

多くの日系人たちは、日本の税制システムや給与から源泉徴収される所得税や住民税、社会保険料等の金額が適正であるかをほとんど把握していないのが現状である。

こうした実態を踏まえて、この実用ガイドブックを出版することに至ったのであるが、我々の最終目標は、日系人たちの納税意識を高めることであり、今後の定住化及び永住化ができるだけスムーズに行われることを希望している。

このガイドブックを以って、できるだけ多くの日系人やラテン諸国の住民が所得税の確定申告や住民税等の重要性を認識し、適正な納税義務を果たしていただければと願っている。そして、定住化には欠かせない共存関係には負担も必要だということを理解していただければ著者として幸である。

著者： 松本 ファン アルベルト